

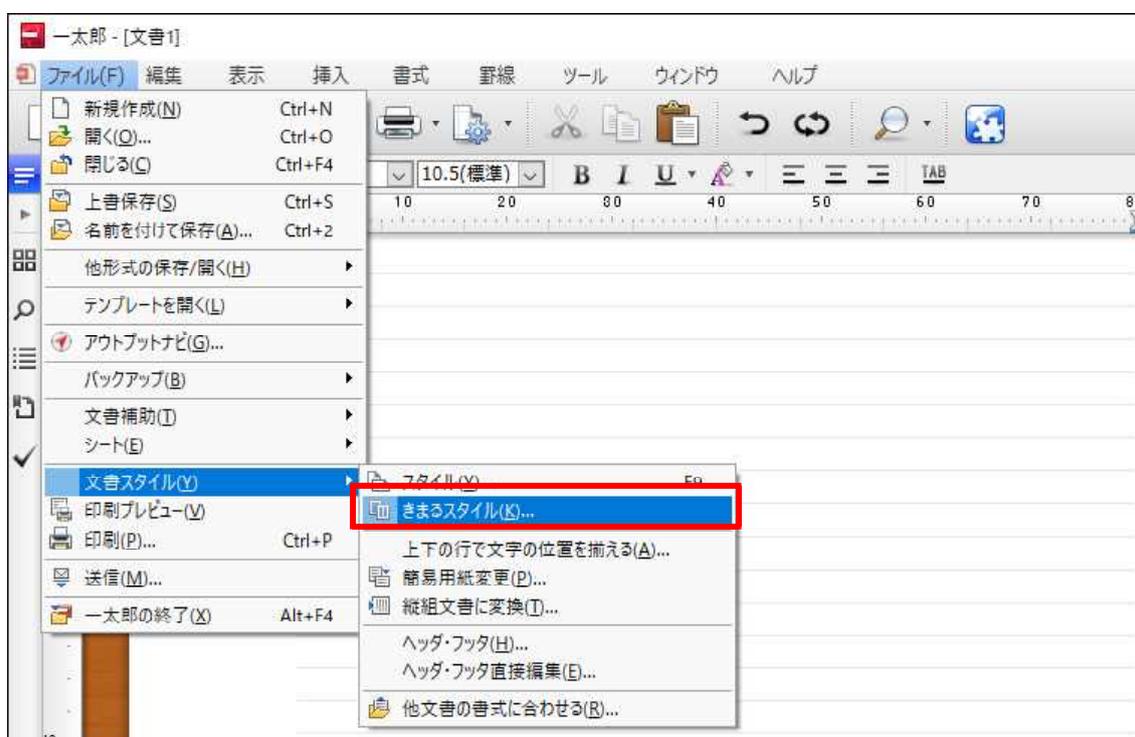
【一太郎 2018 編】

誌面のフチまで図柄がある文書用に「塗り足し」を設定するマル秘テク

印刷所で冊子を印刷、製本するときには通常、仕上がりより少し大きめの用紙に印刷し、サイズに合わせて周囲を裁ち落としています。誌面のフチまで図柄を入れたい場合、裁断時にズレが生じて、紙の端に白いフチが出ないように、「塗り足し」と呼ばれるスペースを設けて、実際の誌面サイズより一回り大きいサイズを設定し、図柄をそこまで広げておく必要があります。

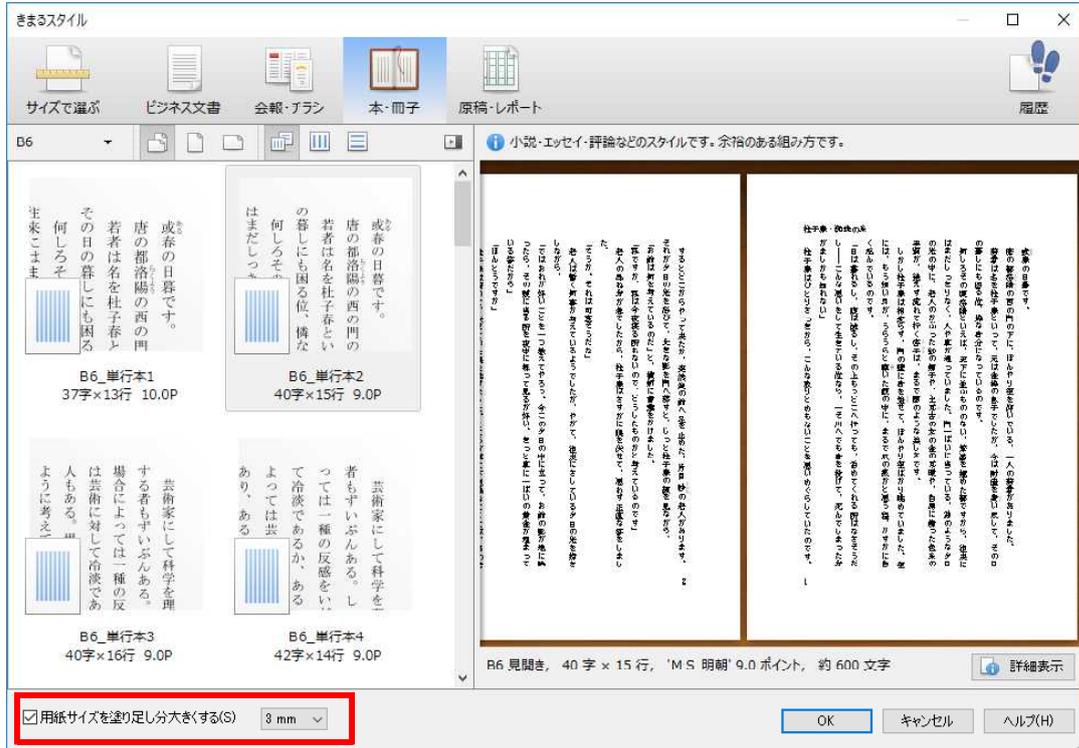
一太郎 2018 では、美しい文書スタイルを簡単に設定できる「きまるスタイル」で、仕上がり時のレイアウトを保持したまま、四方に塗り足しスペースを付け加えた用紙サイズが指定できます。

1. [ファイル-文書スタイル-きまるスタイル] を選択します。



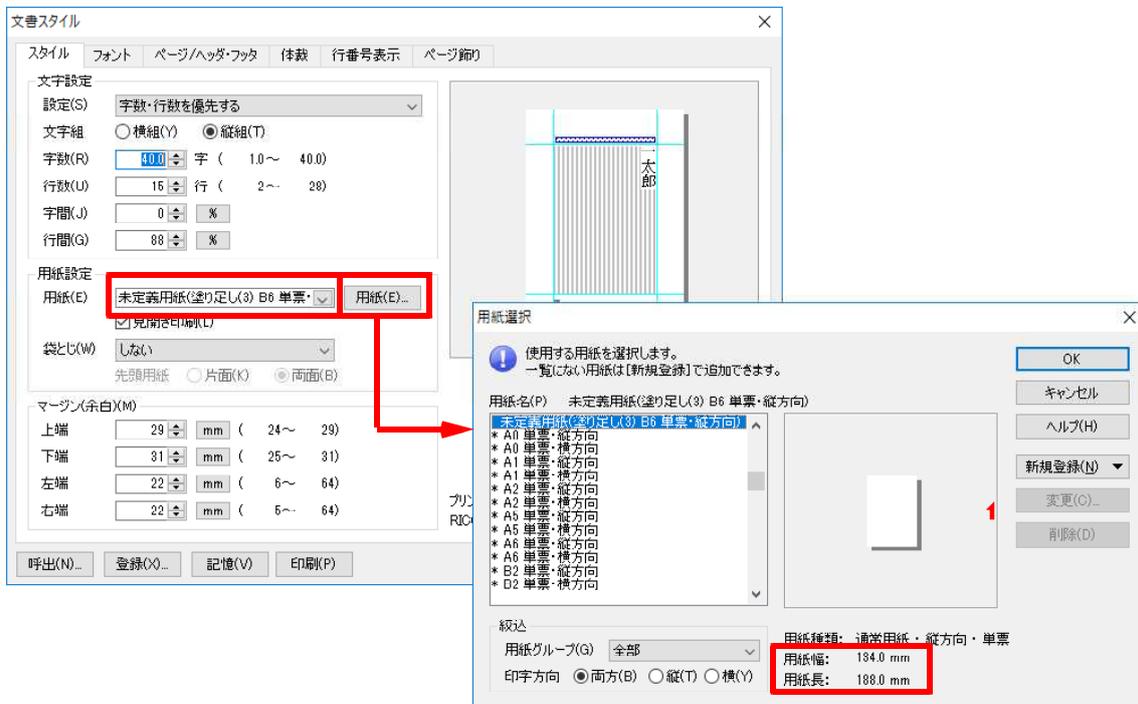
↓

2. スタイルを選択したら、[用紙サイズを塗り足し分大きくする] をオンにし、塗り足しサイズを設定します。ここでは [3mm] に設定しました。[OK] をクリックします。



↓

3. 塗り足しが設定されます。[ファイル>文書スタイル>スタイル] をクリックすると、[用紙] が [未定義用紙] となっており、[用紙] をクリックすると、[用紙幅] と [用紙長] が、それぞれ $3\text{mm} \times 2 = 6\text{mm}$ ずつ大きくなっていることが分かります。



↓

4. 塗り足しが設定された文書です。点線の外側が塗り足し部分となります。この部分まで図柄があれば、周囲に白いフチが出てしまう心配がありません。

※画面上の点線は実際には表示されません。

